

# 馬籠宿における観光の取り組みと町並みの変容

## 3 回生 木口友介

### I. はじめに

岐阜県は3000メートル級の山々が連なる飛騨山脈や濃尾平野を広く流れる大河川・木曾三川という雄大な自然に加え、古くから日本の東西交通の要衝として歩んできたという歴史を持つ。その自然と歴史を活かした観光地は数多くあり、ユネスコの世界文化遺産に登録された白川郷の合掌造り集落や日本三名泉の一つである下呂温泉、1300年の歴史を持つ長良川の鵜飼いはそれらを代表する観光地である。こうした数ある観光地の中でも、中津川市の馬籠宿は国内だけでなく外国からの観光客にも人気が高い。馬籠宿は長野県との県境近くに位置する山あいの宿場町である。この宿場町は元々目立った産業がなく、鉄道や国道も通ることがなかったため発展から取り残されていた。しかし、それにより伝統的な建築物や中山道の歩道といった昔ながらの町並みが残ることになり、その景観は国内外から多くの観光客を引き込む要因となった。

本稿の第2章では岐阜県の観光の実態について統計データを用いながら検討し、それに基づき馬籠宿が岐阜県内の観光においてどのような状況にあるかを示す。第3章では馬籠宿の観光に対する馬籠観光協会と中津川市の取り組みについてヒアリング調査をもとに示す。第4章では馬籠宿の土地利用が1987年から2018年の31年間でどのように変化したかを住宅地図と馬籠観光協会のデータをもとに示す。

本稿の目的は馬籠宿を訪れる観光客の変化が馬籠宿の観光に対する取り組み、土地利用にどのような影響を与えているかを明らかにすることである。

### II. 岐阜県の観光

#### 1) 岐阜県における観光の概要

まず、実数に基づいた統計データを使うことで、より正確に観光の実態を把握することができるため、ここでは入込客数ではなく宿泊客数を用いる。図1は2017年の都道府県別延べ宿泊客数を示したものである。これを見ると岐阜県の延べ宿泊客数は621万人であり、全国では26位と平均的なものである。1位の東京都は突出して多い5,995万人で、2位の北海道の倍近い数である。また、東京都に加え、北海道、大阪府、千葉県、沖縄県が上位に位置していることから、大都市やリゾート地を擁する都道府県では宿泊客が多いということがいえる。

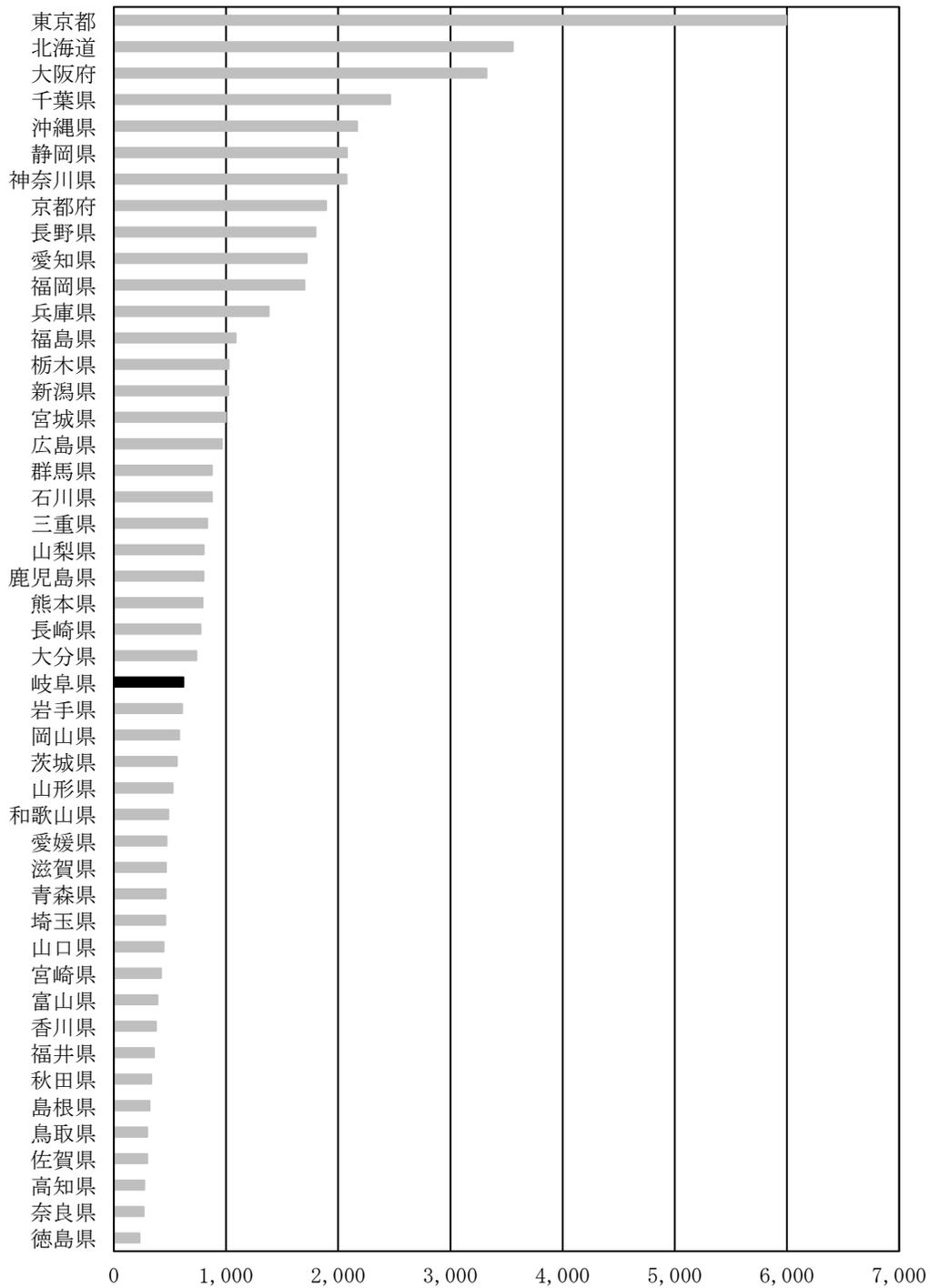


図1 都道府県別延べ宿泊客数 (2017年)  
(宿泊旅行統計調査より作成)

(万人)

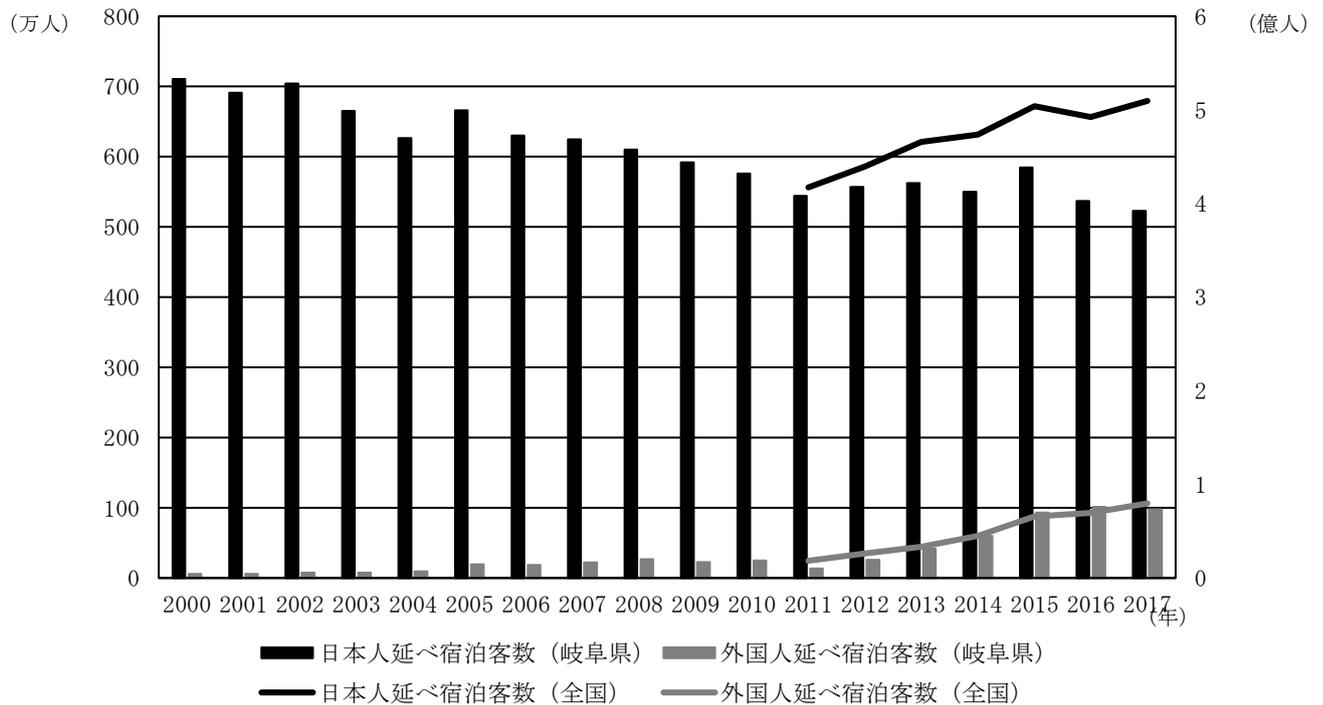


図2 岐阜県と全国の日本人延べ宿泊客数、外国人延べ宿泊客数推移

(宿泊旅行統計調査、岐阜県観光レクリエーション動態調査、岐阜県観光入込客統計調査より作成)

(注) 日本人延べ宿泊客数(岐阜県)、外国人延べ宿泊客数(岐阜県)は2011年以降調査方法が変更されている。

図2は日本人延べ宿泊客数と外国人延べ宿泊客数の推移を岐阜県では2000年から2017年まで、全国では2011年から2017年までで示したものである。岐阜県のデータは2011年以降調査方法が変更されているので、その前後で分けて考察する。まず、最新データである2017年の延べ宿泊者数のうち、岐阜県では日本人が84%、外国人が16%、全国では日本人が86%、外国人が14%となっている。次に推移を見ていく。2000年から2010年までの間で岐阜県の延べ宿泊客数、日本人延べ宿泊客数はともに0.8倍に減少し、外国人延べ宿泊客数は4.4倍に増加した。2011年から2017年までの間で延べ宿泊客数は岐阜県では1.1倍、全国では1.4倍に増加した。日本人延べ宿泊客数は岐阜県では微減、全国では1.2倍に増加した。外国人延べ宿泊客数は岐阜県では7.3倍、全国では4.3倍に増加した。

全国と比べて岐阜県の延べ宿泊客数の伸び幅は小さいが、外国人延べ宿泊客数の割合と伸び幅は大きい。一方、岐阜県の日本人延べ宿泊客数は全国とは対照的に減少している。つまり、岐阜県の観光では外国人観光客の重要性が大きく増加してきていて、外国人観光客に重点を置いた観光地づくりの必要性が年々高まっている。

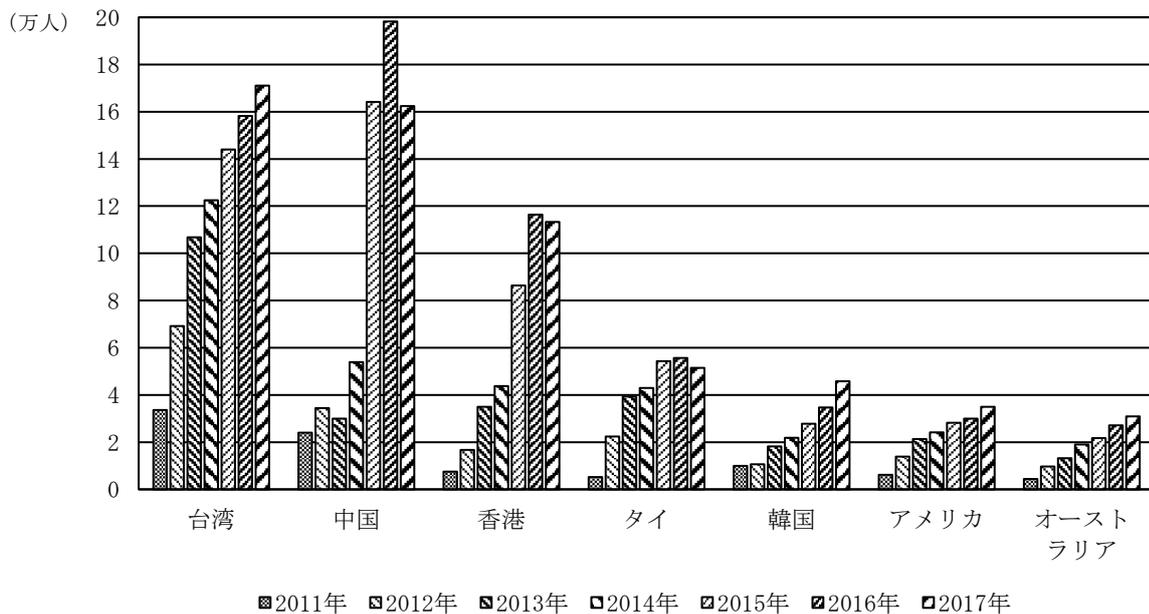


図3 岐阜県の国籍別延べ宿泊客数推移（上位7か国）  
（岐阜県観光入込客統計調査より作成）

図3は近年増加傾向にある、岐阜県における外国人宿泊客の国籍上位7か国を2011年から2017年までの間で示したものである。まず、最新データである2017年の国籍別延べ宿泊数は台湾、中国、香港、タイ、韓国、アメリカ、オーストラリアの順で多く、東アジアの宿泊客が多い。国籍別で変化を見てみると、台湾、韓国、アメリカ、オーストラリアは一度も減少に転ずることなく、安定して増加を続けている。中国、香港、タイは急激に増加したが、2017年では減少に転じた。特に中国、香港は2015年に急増していて、この年の中国は前年比304%という大きな伸びを見せた。2011年から2017年までの伸び率を見ると香港が最も高く、7,510人から113,300人の15.1倍、次にタイで5,280人から51,480人の9.8倍、その次にオーストラリアで4,420人から30,960人の7.0倍となっている。

表1は2017年の岐阜県における観光地点別入込客数を上位15位まで示したものである。1位の土岐市の土岐プレミアム・アウトレットは、買い物を主とした都市型観光で、2位の各務原市の河川環境楽園は木曽川の自然を活かしたレジャー施設である。この中で歴史・文化に関する観光地は3位の高山市の高山市街地エリア、4位の白川村の白川郷合掌造り集落、6位の海津市の千代保稲荷神社、7位の岐阜市の伊奈波神社、12位の中津川市の馬籠宿である。このことから岐阜県では、歴史・文化に関する観光地が上位に位置しているといえる。

表1 岐阜県の観光地点別入込客数（2017年）

順位	市町村名	観光地点名	入込客数（人）
1	土岐市	土岐プレミアム・アウトレット	7,197,450
2	各務原市	河川環境楽園	4,464,244
3	高山市	高山市街地エリア	3,613,000
4	白川村	白川郷合掌造り集落	1,761,418
5	可児市	湯の華アイランド	1,634,202
6	海津市	千代保稲荷神社	1,572,618
7	岐阜市	伊奈波神社	1,499,000
8	海津市	千本松原・国営木曾三川公園	1,340,740
9	岐阜市	岐阜メモリアルセンター	1,286,976
10	下呂市	下呂温泉	1,233,037
11	岐阜市	岐阜公園	1,099,076
12	中津川市	馬籠宿	683,374
13	高山市	奥飛騨温泉郷	635,215
14	恵那市	道の駅そばの郷らっせいみさと	624,646
15	岐阜市	岐阜ファミリーパーク	574,843

（岐阜県観光入込客統計調査より作成）

## 2) 馬籠宿における観光の概要

馬籠宿とは岐阜県東部の中津川市にある観光地で、岐阜県では12番目に入込客が多い(表1)。中山道の宿場町として発達してきた歴史があり、その昔ながらの景観は現在でも保たれている。島崎藤村の出身地として知られ、町の中心にある藤村記念館は長い間、馬籠宿における観光の目玉とされてきた。また、馬籠宿は2005年の越県合併により、長野県山口村から岐阜県中津川市へ編入されたため、岐阜県の中でも独自の歴史を歩んできた町であるといえる。

これまで馬籠宿の観光客は藤村記念館を目的とする者がほとんどであったが、近年ではハイキングコースの人気の高まり、ここを歩くことを目的とした観光客が増えてきている。このハイキングコースは馬籠峠を越え、隣の宿場町の妻籠宿まで繋がっている。歩道が江戸時代から使われている石畳でできているほか、道中には宮本武蔵が修行したといわれる男滝・女滝、松尾芭蕉の句碑などがあり、自然と歴史の両方を楽しめるということで、外国人観光客にも人気がある。

次に、馬籠宿の観光の実態について統計データを用いながら見ていく。表2は2017年の岐阜県における歴史・文化に関する観光地点別入込客数を上位5位まで示したもので、図4は表2で示した観光地点の入込客数を四半期ごとに区切って示したものである。表2を見ると、入込客は1位の高山市街地エリアが群を抜いて多く、2位から4位は僅差、5位の馬籠宿は4位の伊奈波神社の半分以下である。しかし、図4を見ると表2において3位の千

表2 岐阜県の歴史・文化に関する観光地点別入込客数（2017年）

順位	市町村名	観光地点名	入込客数（人）
1	高山市	高山市街地エリア	3,613,000
2	白川村	白川郷合掌造り集落	1,761,418
3	海津市	千代保稲荷神社	1,572,618
4	岐阜市	伊奈波神社	1,499,000
5	中津川市	馬籠宿	683,374

（岐阜県観光入込客統計調査より作成）

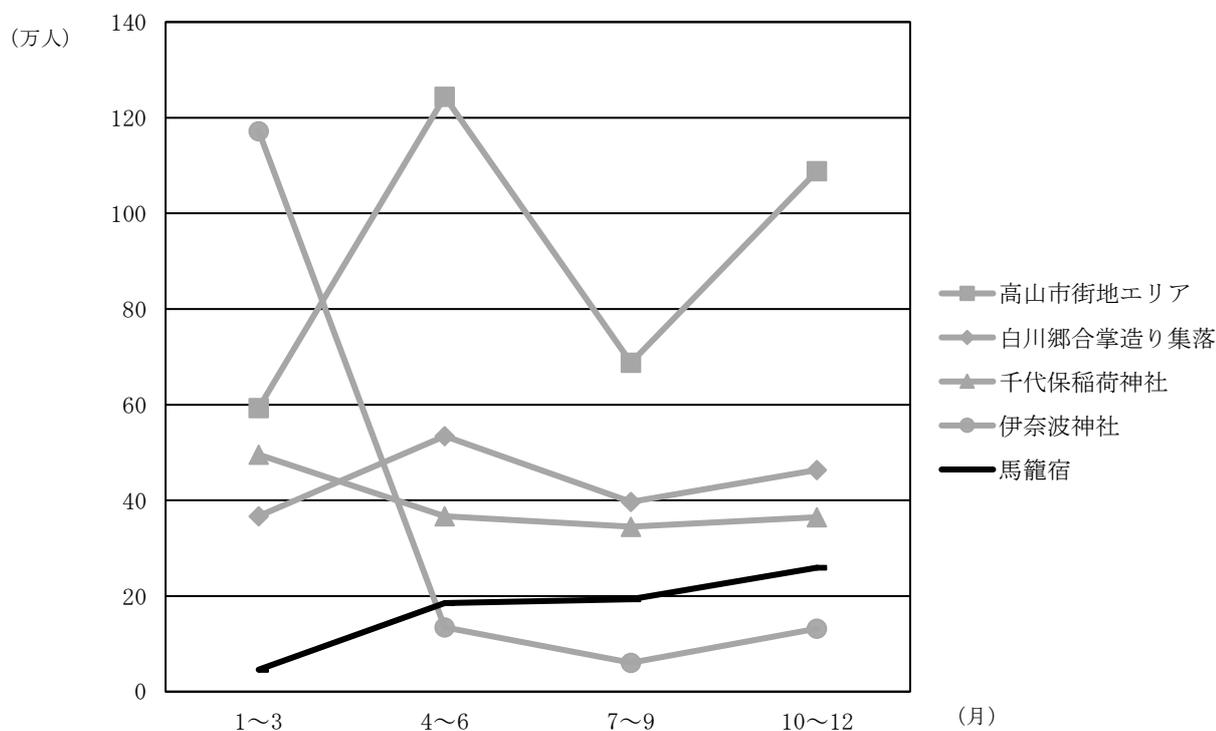


図4 岐阜県の歴史・文化に関する観光地点の四半期別入込客数（2017年）

（岐阜県観光入込客統計調査より作成）

代保稲荷神社と4位の伊奈波神社の入込客は正月の参拝客の影響で1~3月は多いが、それ以外の期間は1~3月と比べるとそれほど多くない。一方、馬籠宿の入込客は1~3月では5万人を下回るが、4~9月では20万人前後、10~12月では26万人となっている。4~12月の馬籠宿の入込客はこれらの観光地点の中で4番目に多く、さらにその時期では2位から5

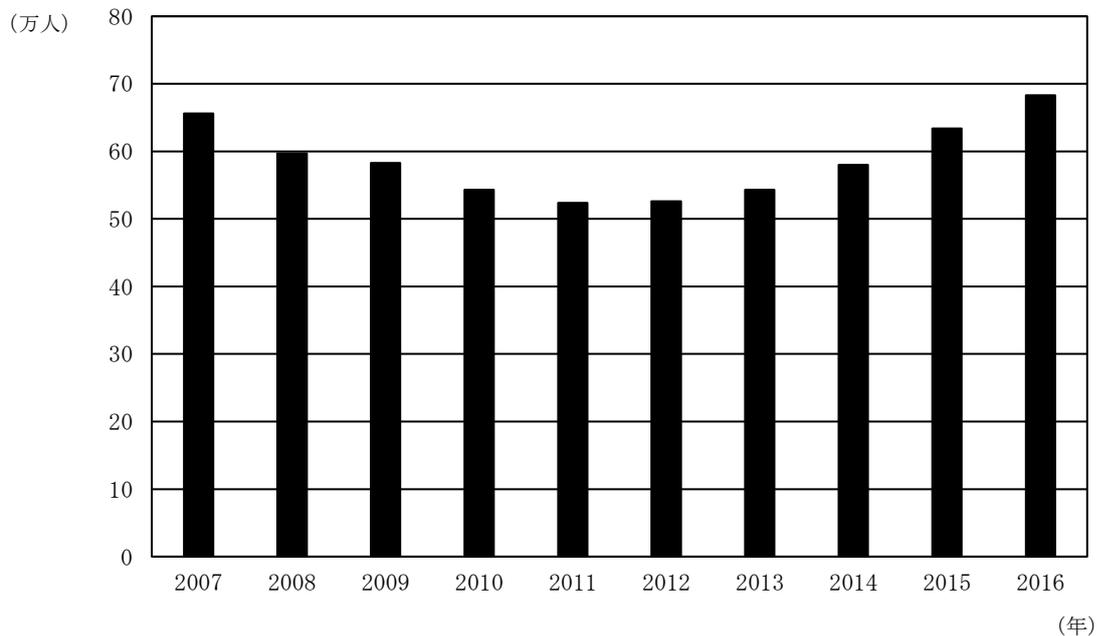


図5 馬籠宿の入込客数の推移  
(中津川市統計書より作成)

位までの観光地点の入込客数も僅差であることから、馬籠宿は岐阜県の歴史・文化に関する観光地点の中で重要な位置を占めているといえる。

図5は2007年から2016年までの馬籠宿における入込客数の推移を示したものである。入込客は2007年から2011年まで減少し、2007年の66万人から2011年には52万人となった。しかし2011年からは増加に転じ、2011年の52万人から2016年には68万人となった。このことから馬籠宿の入込客数は一旦低迷したものの、ここ最近では増加傾向にあるといえる。

### Ⅲ. 馬籠観光協会と中津川市の観光の取り組み

第3章では馬籠宿の観光に対する馬籠観光協会と中津川市の取り組みについてヒアリング調査をもとに示す。馬籠観光協会では地歌舞伎の公演やハイキングコース利用者に対するサービス、ハイキングコースの整備を行っている。地歌舞伎とは地元の人が行う歌舞伎のことで、馬籠観光協会の隣にある馬籠集会所において無料で公演を行っている。馬籠観光協会では観客に対してその様子をSNSで共有してもらうようにしているため、地歌舞伎は馬籠宿の宣伝としての役割も果たしている。ハイキングコースの利用者に対しては、利用者の代わりに荷物を運ぶサービスや統一看板の整備に取り組んでいる。統一看板とは馬籠宿と妻籠宿で別々のデザインであった看板を統一したもののことで、これを整備するこ

とにより、分かりやすい案内ができるようになった。

中津川市ではインフラ整備や課題調査に取り組んでいる。インフラ整備では統一看板の整備、水車小屋の水車改修、Wi-Fi 設置、馬籠集会所の建設などがあり、2017 年では 6000 万円が馬籠宿に投じられた。課題調査では海外から調査員を招き、外国人の目線で調査を行った。その他にも商談会で国内外の旅行会社に向けた PR 活動、英語版の観光パンフレットの作成を行った。

このように馬籠観光協会と中津川市の取り組みで外国人観光客への対応に重点が置かれていることから、馬籠宿において外国人観光客の重要性が増しているということがうかがえる。

#### IV. 馬籠宿における土地利用の変化

馬籠宿の土地利用は 1987 年から 2018 年の 31 年間で大きく変化した。第 4 章ではその変化を示し、その原因を考察する。

図 6 と図 7 は馬籠宿の土地利用を示した地図で、表 3 は馬籠宿の土地利用を 1987 年と 2018 年で比べ、その数と増減率を示したものである。比較対象として 1987 年のデータを利用した理由は、現在と比べ外国人観光客が少なく、日本人観光客が多かった時代と現在の土地利用を比較することで、馬籠宿を訪れる観光客の変化が土地利用に対してどのような影響を与えたかを調べられると考えたからである。ここでは土地利用のなかでも、馬籠宿の観光に重要と考えられる、土産物店、飲食店、民宿・旅館、ゲストハウスの 4 つの分類について変化を見ていく。

土産物店はこの中で最も増加率が高く増減率は 177% である。1987 年では民宿・旅館とともに最も多く、2018 年では単独で最も多いことから、馬籠宿の観光施設の中でも中心的役割を担ってきたといえる。

飲食店は 2018 年において 4 つの分類の中で 2 番目に多く、増加率も 2 番目に高い 136% である。しかし、1987 年では、馬籠宿に存在しなかったゲストハウスを除き最も軒数が少ない観光施設であった。だが、2018 年では、1987 年において飲食店の次に軒数の多かった民宿・旅館が大きく減少したことにより、存在感が大きくなった観光施設であるといえる。

民宿・旅館は 1987 年において土産物店とともに最も多い観光施設であったが、2018 年ではその数を大きく減らし、1987 年の半分以下である 6 軒となった。

ゲストハウスは 1987 年の馬籠宿にはなかった観光施設であるが、2018 年では 2 軒存在している。ゲストハウスは諸外国では一般的な宿泊施設であることから、馬籠宿でも増加の著しい外国人観光客の需要に合わせて、増え始めていると考えられる。

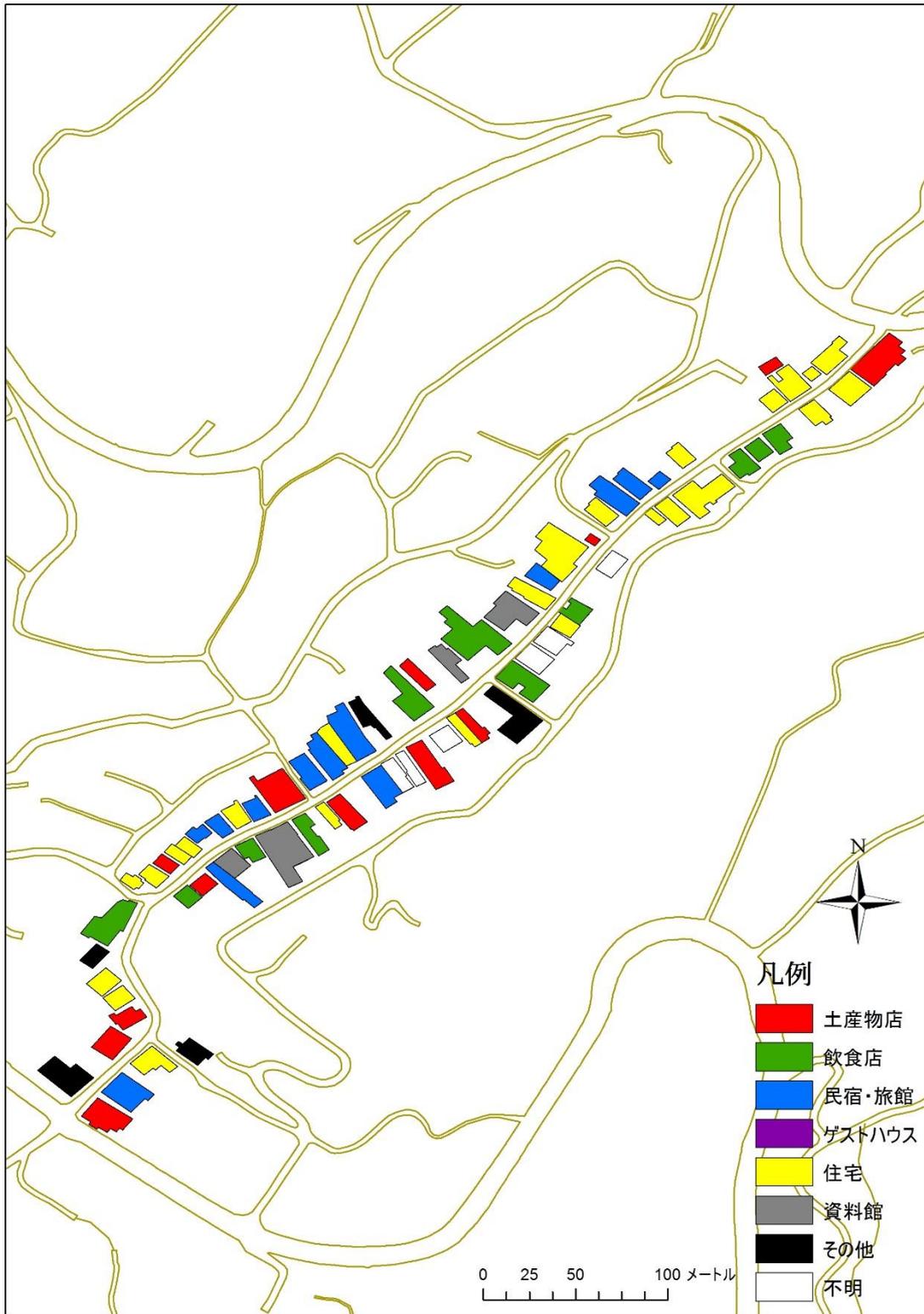


図6 馬籠宿の土地利用（1987年）  
 （住宅地図、馬籠観光協会ホームページより作成）

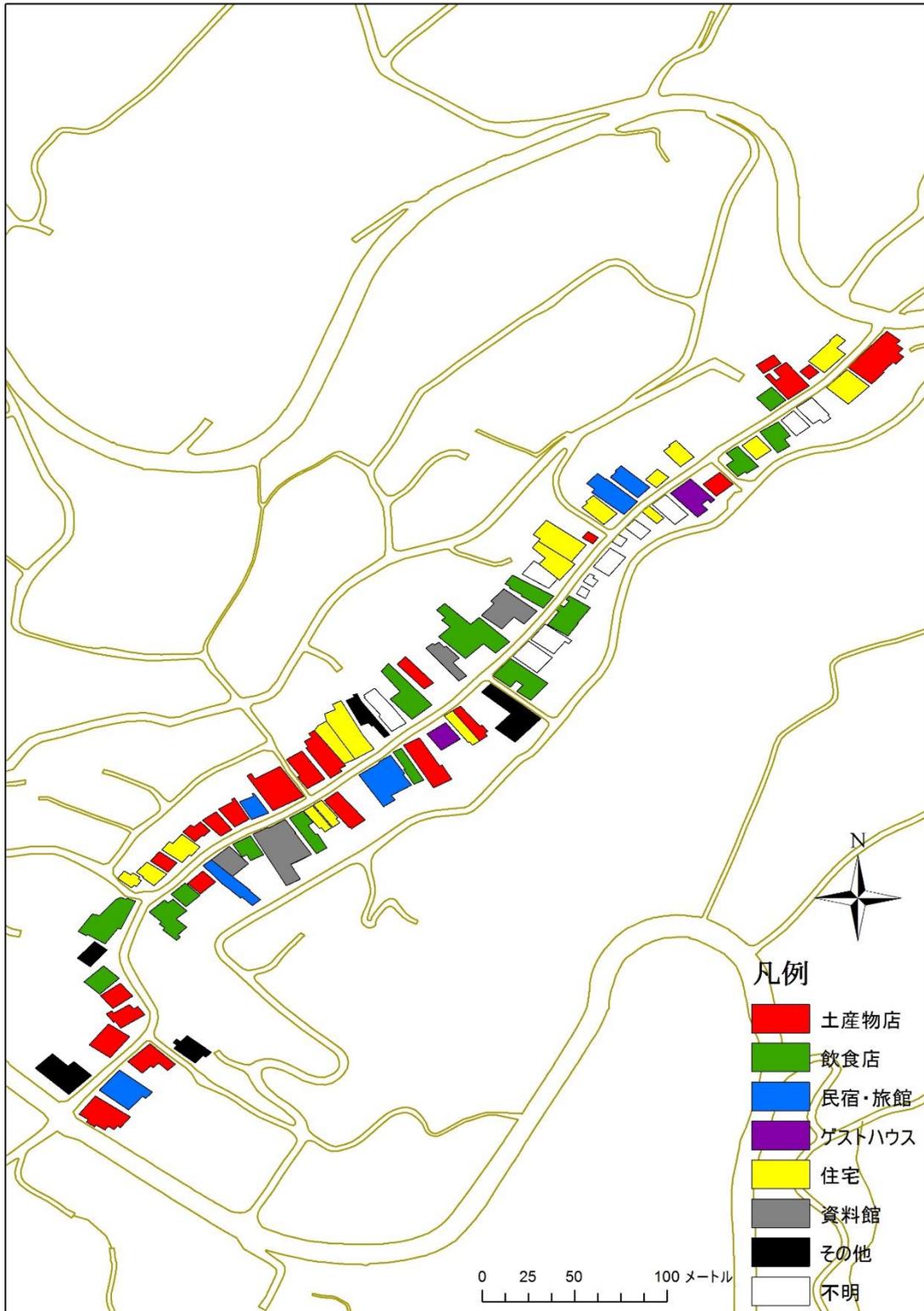


図7 馬籠宿の土地利用（2018年）  
 （住宅地図、馬籠観光協会ホームページより作成）

表3 馬籠宿における土地利用の変化 (1)

分類	1987年 (軒)	2018年 (軒)	増減率 (%)
土産物店	13	23	177
飲食店	11	15	136
民宿・旅館	13	6	46
ゲストハウス	0	2	—
住宅	25	17	68
資料館	4	4	100
その他	5	5	100
不明	6	12	200
建物無し	8	0	0
合計	85	84	99

(住宅地図、馬籠観光協会ホームページより作成)

表4 馬籠宿における土地利用の変化 (2)

年 1987 2018年	土産物店	飲食店	民宿・ 旅館	ゲスト ハウス	住宅	資料館	その他	不明	建物なし	住宅、 住宅	飲食店、 住宅	民宿・ 旅館、 不明
土産物店	13		4		5							
飲食店		9			3			1	1		1	
民宿・旅館			5									1
ゲストハウス								1				
住宅		1	2		10				1	1		
資料館						4						
その他							5					
不明			1		2			3	6			
建物なし												
土産物店、 ゲストハウス					1							
住宅、住宅					1							

(住宅地図、馬籠観光協会ホームページより作成)

表4は1987年から2018年の間で土地利用がどの分類に変化したかを具体的に示したものである。ここでは土産物店、飲食店、民宿・旅館の3つの分類について変化を見ていく。

まず土産物店について見ていく。2018年における土産物店23軒は、1987年では13軒が土産物店、4軒が民宿・旅館、6軒が住宅であることから、4割の土産物店がこの間に新規開業していることがわかる。さらに1987年時点で土産物店であった建物は1軒も廃業していない。住宅が土産物店に変化した原因は、観光客の増加で土産物の需要が増加したこと、民宿・旅館が土産物店に変化した原因は、民宿・旅館の主な利用者層である日本人宿泊客が減少したことであると考えられる。これらのことから土産物店の需要は大きく増加しているといえる。

次に飲食店について見ていく。2018年における飲食店15軒は、1987年では9軒が飲食店、3軒が住宅、1軒が不明、1軒が建物なし、1軒が飲食店、住宅であることから、3割の飲食店がこの間に新規開業していることがわかる。しかし、1軒は廃業し、住宅になった。このことから飲食店の需要は土産物店ほどではないが、増加しているといえる。

次に民宿・旅館について見ていく。民宿・旅館は31年間で1軒も新規開業されていない。1987年における民宿・旅館13軒は、2018年では4軒が土産物店、2軒が住宅、1軒が不明に変化していて、民宿・旅館として1987年から続いているのは6軒である。このことから民宿・旅館の需要は土産物店や飲食店とは対照的に減少しているといえる。

馬籠宿では1987年から2018年の31年間で、土産物店、飲食店、ゲストハウスは増加し、民宿・旅館は減少した。但し、民宿・旅館が減少しているとはいえ、外国人観光客の宿泊需要にはゲストハウスという形で対応しているため、宿泊業全体が衰退しているとは言い難い。日本の主な宿泊施設である民宿・旅館は朝食と夕食が付くところが多い。しかし諸外国の宿泊施設では夕食と朝食は宿泊客自らが準備することが多いため、民宿・旅館は外国人にはあまり受け入れられないのではないかとみられる。そのため外国人宿泊客が増加し、日本人宿泊客が減少している馬籠宿では民宿・旅館が減少し、ゲストハウスが増え始めていると考えられる。

## V. おわりに

岐阜県の観光は全国的に見ると平均的であるが、外国人宿泊客の割合、伸び率は全国と比べて高い。このことから岐阜県は観光の面で見ると観光立国を目指す日本の中で一歩先を進んでいる存在であるといえる。岐阜県が外国人観光客の人気を集めた一因に歴史的・文化的価値の高い観光資源が雄大な自然の中に存在しているということが挙げられる。馬籠宿はそうした観光地の一つとして知られ、隣の宿場町の妻籠宿まで続くハイキングルートを中心に多くの外国人観光客が訪れる。これに対応するために馬籠宿では外国人観光客に重点を置いた観光地づくりを馬籠観光協会、中津川市が主導して行っている。外国人観光客の増加と日本人観光客の減少に伴い、馬籠宿の土地利用もここ31年間で大きく変化し、

土産物店、飲食店、ゲストハウスが増加する一方で、民宿・旅館が減少した。これは外国人観光客の需要に合わせてゲストハウスが開業するようになり、さらなる外国人観光客を呼び込むための環境が整ってきているともいえる。外国人観光客の増加が続く馬籠宿では、これからも土産物店、飲食店、ゲストハウスを増加させることで彼らの需要に応じていくのではないかと考えられる。

#### —付記—

本稿を作成するにあたり、馬籠観光協会の原真理人様、中津川市商工観光部観光課の小南誠様には、お忙しい中にも関わらず快くヒアリング調査に対応して頂き大変お世話になりました。ここに記して厚くお礼申し上げます。

#### —参考文献—

- ・観光庁ホームページ「宿泊旅行統計調査」  
<http://www.mlit.go.jp/kankocho/siryou/toukei/shukuhakutoukei.html> (2019年3月13日最終閲覧)
- ・岐阜県庁ホームページ「岐阜県統計書デジタルアーカイブ」  
<https://www.pref.gifu.lg.jp/kensei/tokei/tokei-joho/11111/tokeisyo-youran/gifuken-tokeisho/>  
(2019年3月13日最終閲覧)
- ・岐阜県庁ホームページ「観光入込客統計調査」、「観光動態調査」  
<https://www.pref.gifu.lg.jp/sangyo/kanko/kanko-tokei/> (2019年3月13日最終閲覧)
- ・馬籠観光協会ホームページ「馬籠宿絵マップ」、「中山道馬籠宿案内略図」  
<http://www.kiso-magome.com/kankou.html> (2019年3月13日最終閲覧)

